



## 双方向機能を持ち始めた放送

### 独立型サービスの位置付け

前回は「番組連動型」のデータ放送を紹介したので、今回は「独立型」のサービスを紹介しよう。現在行われている例には、右に述べるテレビ東京の「ITビジョン」がある。

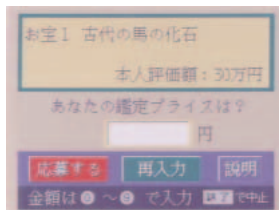
独立型サービスでは、同時刻にテレビで放送されている番組とはまったく関係のない、ニュースや天気予報などの情報が提供される。

たとえば、テレビでゴルフ番組を見ているときに、週末に自分もゴルフに出かけることを思い出して、急に週末の天気を知りたくなったとする。データ放送画面を呼び出して、その中から気象情報に関するメニューを選択すればいい。天気予報番組が始まるのを待つ必要はなく、自分の好きなきに閲覧できるというわけだ。また、7桁の郵便番号を入力すれば、局地的な予報まで知ることができる。放送中のテレビ番組に関心がなければ、データ放送によるニュースだけを見ているでもいい。データ放送の技術を使って、テレビ番組の一覧表を見ながら見たい番組を検索したり、詳しい番組内容を照会したりすることもできる。

独立型サービスは、従来どおりのテレビ番組を放送しながら、それと同時に番組の内容とはまったく別の情報を伝送することを想定したサービスとして位置付けられる。

インターネットからウェブページをピックアップして伝送しているものなどはその典型と言える。日々増殖しているインターネット情報を放送電波で伝送することは、視聴者にとってみれば通常のインターネット利用にともなう通信のコストや検索時間の節約になるし、テレビ局としても効率よくソフトを調達できるということにつながる。

ただし、テレビ局としては放送中の番組から視聴者を引き離すことにもなるため、スポンサーへの配慮からも、あまり独立型を推し進めるのは難しいという問題もある。データ放送が本格化してくると、番組連動型も独立型も、有料放送ではなく広告放送を行う事業者が多くなることが予想されるため、独立型は独立型でスポンサーを付けていくということになりそうだ。



### テレビ東京のITビジョン

1996年10月にテレビ東京は、米国のウインク・コミュニケーションズ社が開発した規格であるインターテキスト方式を使って、地上波アナログデータ放送サービスのITビジョンを始めた。

放送用電波の隙間(VBI)に文字や図形などのデータを入れて送信するもので、インターテキスト機能付きテレビを使用するか、一般のテレビに専用チューナーを接続することで受信できる。さらに、テレビまたは専用チューナーを電話回線につなぐと、視聴者からもテレビ局やサーバー管理会社に対して情報を発信できるという双方向機能を備えている。

現在行っているサービスには、連動型サービス、独立型サービス、オンラインサービス(テレビ東京ネットの放送電波が届かない地域のユーザー向けのサービス)がある。

双方向機能はリモコンを使った簡単なものとなっている。連動型サービスでは双方向機能を活かして、放送している番組の内容に関して視聴者からの投票を募り(映画の評価やクイズの解答など)その結果を放送中に直ちにフィードバックするなどの試みも行われている。たとえば、「開運!なんでも鑑定団」では、鑑定士が「お宝」を評価する際に、視聴者が自分の鑑定した値段を入力すると、電話回線で局側に流れるという視聴者参加型のサービスを実施している。

また、オンラインサービスでは、テレビ画面を使って通信販売の注文を受け付けるなどの実験も行われているが、受信機がパソコンではなくテレビであるがゆえの反応速度の遅さが、かえって高齢者ユーザーに使いやすいとして好評を博している。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)